

平成29年度学校評価シート

1 学校教育目標

「希望と努力をもって未来に挑戦する子どもを育成する。」

障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を充実させ、その能力や可能性を最大限に伸ばし、将来の自立と社会参加に向け各自の希望に向かって努力する志と力を培う。

その実現に向け

- 障害による様々な困難を主体的に改善、克服する力の育成
- 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成等「生きる力」の育成
- 夢や希望の実現に向け主体的に努力する意欲と態度の育成
- キャリア教育を推進し、将来の社会参加や自立に必要な態度と能力の育成

2 重点目標

- 一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育を推進するため、個々に応じた合理的配慮を提供する。
- 豊かな社会性と人間性を育むため、交流及び共同学習を計画的・継続的に推進する。
- 幼稚部から中学部まで系統的・継続的な体験学習を充実させ、学び成長する意欲と将来への希望を抱く教育を推進する。
- 自他の人権を尊重し人との関わりの中で他を思いやり感謝する心を育む人権教育と、人としてより良く生きるための道徳教育を充実させる。
- 様々な自然災害から生命を守り、主体的に行動する力を育むための防災・安全教育を充実させる。
- 地域の特別支援教育のセンターの機能及び「但馬地区特別支援学校ネットワーク会議」の一層の充実を図る。
- 教職員の協働体制を確立するとともに、教職員としての資質と実践的指導力の向上に努める。
- 家庭・地域との積極的な連携を行い、開かれた学校づくりを推進し、信頼される学校づくりを行う。
- 教職員の勤務時間の適正化に取り組み、すべての教職員が子ども一人一人に向き合える環境づくりを進める。
- 本校の特色である寄宿舎を活用し、学校教育に加えて生活自立・社会自立を確立させるための個別に応じたきめ細かな教育を継続的にを行い、実践的な力を培う。

分野	評価内容	評価				取組への意見等	取組の成果／改善の方策	
		H29	4	3	2			
総務部	学校行事や儀式的行事を、幼児児童生徒に分かりやすく充実させる。	3.5	19	20	0	0	○昨年より変更点や新しい取り組みが見られてよかった。 ○配布物ボックスの設置により、配布プリントの確認がしやすくなった。 ○行事では、幼児児童生徒にわかりやすい表示があり、とてもよい。日差しの関係でスクリーンが見えにくいのが残念です。 ○総務全員で協力しながら課題改善に取り組んでいる点がよかった。 ○儀式等、流れをボードに提示したり、伝える内容を手話で表現したりして、子どもたちにわかりやすい支援ができた。 ●個人情報の取り扱いについて、職員に周知する時は場を設ける必要がある。特に印刷物等の取り扱いについてはもう少し気を付ける案内が必要では。 ●ニコニコまつりの実施については、来年度は変更点があると思いますが、暑さ対策など、安全に執り行えるといいと思います。	○今後はスクリーンが見えにくいときには、カーテンを閉めるなどの対応をしたい。 ○個人情報の取り扱いについて意識を高めるためには、学校として考える必要がある。印刷物を捨てる際の注意点等、今後検討が必要。
	オープンスクールや学校間交流などを通して、地域と連携した活動を推進し本校の理解啓発を図る。	3.4	17	21	1	0	○メール送信で各学校等に案内してもらい、オープンスクールに足を運んでもらいやすかった。 ○オープンスクールはたくさんの方が来校され、よい機会であったと思う。 ○寄宿舎は、定時制や他の人委員会との交流が充実しており、学校間交流、地域との連携が深められていると思う。 ○行事等をオープンスクールと重ねているために、それぞれの連絡調整が必要となります。オープンスクール担当をつつてはどうか。 ●オープンスクールの統括する部署を明確にし、内容の整理を行う時期になっているように感じる。 ●オープンスクール等学校行事が増える今年度、学校行事の精選が必要。 ●オープンスクールのかじ取り役がどこなのか曖昧で、関係者の連携が難しかったように思う。相談・報告等連携できるようにしなければと思う。	○オープンスクールに関しては、本年度学部長会、教頭先生、総務部長で事前打ち合わせと事後の反省を行った。3者が分担して進めていくことを共通理解している。また、総務部内にもオープンスクール係を新設する必要があるかもしれない。部内で検討。 ○ニコニコまつりについては、ニコニコまつり実行委員会で反省を行った。良かった点は残しながら、暑さ対策を強化し、たくさんの方との交流ができる行事として今後も続けていきたい。
教務部	「個別の指導計画」の保護者との合意形成を通して、指導目標の共通理解を図る。	3.4	16	22	0	1	○学期ごとの個別懇談を通して、「個別の指導計画」の保護者との合意形成を通して、指導目標の共通理解を図る。 ○クラス相談日の設定により、担任団の協議を重視し、幼児児童生徒の合理的配慮に考慮した「個別指導計画」の作成に努める。 ○「個別の指導計画」に合理的配慮を記載し、意識することができた。 ○「個別の指導計画」を提示することで保護者が安心して学校生活の様子を思い描いているようだ。	○今年度より、クラス相談日を年間計画に明記することで、総務部と連携し日程調整ができ、クラスでの話し合いの時間確保ができた。 ○合理的配慮の個別の指導計画への明記も含め、保護者に個別の指導計画を提示した。提示することで、保護者が安心して学校生活の様子を思い描け、共通理解ができたようだ。
	担任団の協議を重視し、幼児児童生徒の合理的配慮に考慮した「個別の指導計画」の作成に努める。	3.4	19	19	0	1	○相談日を行うことで、担任団で協議する時間が確実に確保されるのが良いと思う。 ○クラス相談日があることで、クラスの中でしっかり話し合いができたのは良かった。個別の指導計画に支援計画で書いた合理的配慮が書かれるのは分かりやすくてよかった。 ○指導要領改訂の理解啓発をしていただいていたよかった。ほかにも色々されているので、「指導計画」以外の目標も検討してはどうか。 ○合理的配慮に関して課題が出てきた時の校内での解決の方法(システム)を考えたい。 ●学期初めの指導計画提出時期や相談日についてはもう少しゆとりが欲しい、特に冬休みに感じた。	○学期の初めの指導計画提出時期や相談日の設定は、ゆとりのある設定を検討するように努める。今年度は、一月については、カレンダー上の問題や他の会議との兼ね合いで時期早くに設定せざる終えなかった。
生活指導部	学校行事や朝会などで幼児児童生徒が主体的に活動できるような場の設定を行う。	3.5	19	20	0	0	○評価内容ができたと思うので、今後は新しいことにも取り組んでいくことができるようになればと思う。 ○いつも分かりやすい寸劇があり、分かりやすくしていただきありがたい。 ○子どもたちが前に出て報告発表するなど場の設定ができた。 ○朝会では、生徒会が活躍する機会や生徒が発表する機会(校長先生の話の時など)たくさんあり、子どもたちも集中してみたり聞いたりしているように思う。 ○劇は子どもたちにとってよくなるので続けてほしいが、劇の時間が短くなればもっとよい。 ○朝会では、幼児児童生徒が発言したり報告したりと主体的に活動できていた。 ●朝会や終業式など寸劇があり、子どもたちに分かりやすいように工夫されているが、自開の子どもに取ってはとも長らく感じられ、しんどそうな様子も見られる為、できれば少しでも短めにしていたきたい。 ●決められた時間内で活動が終わるように、内容の精選が必要と感じた。	○朝会や長期休業前の指導については、分かりやすい教材提示の仕方の工夫をしながら、子どもたちの集中力が続く時間内にまとめられるよう内容の精選を行っている。 ○幼児児童生徒がより主体的に活動できるよう、企画や準備なども含めて新しい内容の検討をしている。
	避難訓練の仕方や児童一人一人に応じた避難方法等を検討、工夫、改善し、本校児童の実態により適した防災教育を行う。	3.6	22	17	0	0	○様々な場合を想定して、色々なパターンで実施されているところが良かった。 ○避難訓練の設定が工夫されており、職員も実際起こった時の対応を考えながら取り組むことができたのでよかった。 ○避難訓練の際、訓練開始時間を伏せて実施したことは、実際の緊急事態が起きた時の対応に少し近づいたことができたと思う。 ○避難訓練の方法を統一しないことで、教師が状況を考え対応する練習となった。 ○様々な想定での避難を体験できるのは良い。本当に起きそうな場面を想定して継続してもらいたい。 ●児童の実態に合わせながら、避難訓練は最悪を想定したものができていると考えるが、備品がどこにあるのか、防災マニュアルには何が書いてあるのかを、どの教師ももう少し把握する必要があると考える。 ●本校のような校舎の構造(2・3階から直接校外に避難する経路がない)の場合、車いすを必要とする児童生徒が入学した場合、教室配置も考えたほうがよい。	○避難訓練については、今後も様々なパターンを想定して実施すると共に、教員が危機管理マニュアルを共通理解し、いざという時に迅速に動けるような研修を随時行っていくよう検討する。 ○車椅子や足下が不安定な児童の避難経路や教室配置をどのように考えるか、学校全体で話し合っているような体制作りも必要である。
研修部	研究テーマに沿って授業研究を行い、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善に向けて協議する。	3.4	17	22	0	0	○研修等で行っている学ぶことができたので、今後の指導や授業改善に繋げていきたい。 ○キャリア教育の視点を入れた指導案を作成するようにしている。 ○研修案内などその都度教えていただきありがたい。 ○授業についての協議ができる研修は実がある。お互いに教材や授業について情報交換できる小さい場での研修があってもよい。 ○研修会がききやすかった。 ○学部において研究テーマに沿って授業研究を行い、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善に向けて協議する。研修において合理的配慮に関する研修を行い、専門性を高める。 ●発達障害について講師を招いての研修ではなく、本校の職員でじっくりと実態に応じた研修をしてはどうか。 ●授業研究は、どの教科も普段からキャリア教育の視点を取り入れるよう意識を促していただければと思う。	○キャリア教育の視点を踏まえながら、それぞれの学部で工夫して授業改善に向けて協議することができた。研究を進める中で、事例検討したり、教材研究をしたり、情報交換したりできる場とも考えていきたい。
	合理的配慮に関する研修を行い、専門性を高める。	3.4	18	19	2	0	○合理的配慮の研修は、疑問に思っていたことが解決し、自分の理解に繋がった。 ○合理的配慮の研修は分かりやすくなった。 ○合理的配慮の研修会が非常にわかりやすかった。繰り返し研修し、知識を深めるため来年度も実施を希望する。 ○研修会では合理的配慮と教育的支援の内容・説明等がわかりやすかった。 ○合理的配慮や指導要領改訂時に研修を設けてもらい専門性を高める機会となった。	○全職員が同じ場で同じ内容について研修をすることができた。専門性を高めるためにも 今後も様々な研修会を実施したい。
保健部	心肺蘇生法やケーススタディを実施し、校内の緊急時体制を整える。	3.3	16	20	2	1	○今後も緊急対応の確認は毎年必要であると思う。 ○小学部から1件、中学部から1件、具体的な事例を挙げ、実際に起こりうる緊急事態を想定してのケーススタディは、大変有意義であった。 ○緊急時体制を整えることは大切だと思うので、今後も全員で行う研修の機会を設けてほしい。 ○子どもたちの命を守るためにも必要な研修だと思います。 ○ケーススタディの時、豊岡市消防の方の話がとてもわかりやすかった。 ●感染症に対する組織的な緊急体制も検討してはどうか。	○具体的な事例をあげてもらえたことや消防の方の話も分かりやすく、実りある研修となった。 ○今後も緊急時体制を意識しながら、心肺蘇生法やケーススタディを具体的な事例をあげ、実施していきたい。 ○事例をみてもらう位置や暑さ対策などに配慮が必要。
	学校給食で活用する野菜の皮むき作業などを通して、食に関する体験活動を推進する。	3.5	20	19	0	0	○野菜の皮むきなどの体験は、良い経験となっている。食に対する関心を持つこともできると思うので今後お願いしたい。 ○野菜や豆を実際に触ることで、子どもたちの食への興味・関心が広がった。 ○食の体験活動によって幼児児童生徒が苦手な野菜にチャレンジしようとする様子が見られたので、今後も体験活動を続けてほしい。 ○野菜の皮むき作業などを通して、わかりやすく体験ができてよかった。 ○実際に使う食材の準備を手伝える環境は、ありがたいです。これからも様々な体験をさせていただきたいです。	○各学部、クラスに実施したい食材や時期のアンケートをとったことで全員が食に関する体験活動をすることができた。 ○来年度も年間指導計画を基に実施していきたい。
舎務部	集団生活をとおして、他を思いやる心や協力してたくましく生きる力を育む。	3.3	12	26	1	0	○学校外での生活の指導などしていただきありがたい。 ○舎生が増えて、子ども同士がお互いに関わり合いながら生活し、力を高められているのはとても良い。男性指導員が男子の入浴指導にあたれて良かった。しかし、今後講師の割合が増えて、未経験者が増えと指導が難しくなるのではと心配である。寄宿舎指導の専門性の継承も課題である。 ○幅広い年齢層の舎生が一緒に生活することで、それぞれ良い刺激を与え合い、生活自立に向けた成長につながっている。 ○男性職員が配置され、男子舎生への入浴時同性介助が実現した。把握した上で連携を図るべき。 ○寄宿舎生活を通し、生きる力が育まれている。 ○食事、着替え、入浴、宿泊等生活能力の向上に役立った。 ○生活の中で思いやりや協力することを育む場がたくさんあった。家ではしていなかった洗濯などをがんばって行う姿が見られた。 ○生活面におけるスキルや人間関係の学びが、学校生活にも生かされていることを感じている。 ●体験入舎について、時間など入学した時は説明があるが、何年か経つと忘れていく保護者が多いので、1年に1回くらい説明文書があるとよいと思う。	○毎年4月と9月の職員会議で実施案を配布し、説明を行っている。また、新入生については担任を通じて個別に対応してきた。聴知併置に伴い検討を行った結果、対象児童生徒等大きな変更があるので、新年度早々に実施案を配布するとともに説明を行う予定。年ごとに舎の状況により内容の変更も起こりうるため、必要に応じて説明する機会を持つ。 体験入舎生の担任に、舎に関する事(寄宿舎の生活の流れ、連絡帳の記入と取り扱い、下校時の引き渡し等)を説明する機会を持つようにする。 ○入舎基準は校内規定に明記しており、変更は行っていない。聴知併置に伴い新年度校内規定に変更・訂正を行い、周知徹底を行う。保護者から入舎希望が出た段階で寄宿舎の生活の流れ、在舎の形態、諸費用などについて話をする機会を設け、その上で保護者に最終決定してもらう。
	将来の自立に向け、個別の生活指導計画を作成し、基本的な生活習慣の確立や生活能力の向上を目指した支援を行う。	3.3	15	22	2	0	●担当の生徒の生活指導計画を把握できていなかった。 ●学校の延長ではなく、子どもの学校生活を支える「生活の場」であってほしい。	○交替勤務の中で、いろいろな寄宿舎教員が色々な舎生に対応することになるので、舎生一人一人生活指導目標を十分に把握し、目標達成に向け日々取り組む。引継ぎ会や研修会等で生活指導計画の取組について情報を共有し、全寄宿舎教員の共通理解を図る。学級担任とも舎生の生活指導目標の共通理解に努める。 ○寄宿舎は通学保障の施設であり、基本的な生活習慣を確立し生活技能を身に付けるための教育機関でもある。学級担任と担当寄宿舎教員が舎生の実態について共通理解し、担当者相談会で生活の課題を明確にしなが目標を設定し舎生の指導を行う。日々の引継ぎを通し全寄宿舎教員が情報を共有し、共通理解を図り引き継ぎ学校生活を支える生活指導に取り組む。舎生の学級担任全員に舎での生活や担任の先生に依頼すること等について話をする機会を設けていきたい。

支援教育部	知的併置の理解周知にも努めながら、教職員全体で連携協働して教育相談を進める。	3.2	11	24	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ○職員全体で連携協働して教育相談を進めるまでには至らなかったが、できる範囲で協働して進められた。 ○校区の小学校へ足を運ぶことで、理解してもらえつつあり、コーディネーターと繋がった学校もある。教育相談についてはさらに教職員全体で進めていきたい。 ○部内だけでなく、学部長をはじめ全体で教育相談に関わるといった職員の気持ちがいまより高まっているように感じる。 ●支援教育部、学部長の先生だけで教育相談を行うことは、無理になってきていると思う。全職員が協力して取り組んでいけたらよいと思う。 ●今後、知的児童生徒が増えることが考えられる。知的教育相談のあり方をどのようにするか考え、体制を作っていく必要があると思う。 ●教職員全体で連携協働して教育相談をすすめるには、校内体制の見直しが必要であると思うが、本校の職員の規模で教育相談をするのであれば、分掌の仕事の精選も考えたい。 ●教育相談については、現在支援部やその他のごく一部の先生だけが大変な思いをされていて、教職員全体で連携協働はできていないと思う。 ●今回は教育相談に関わることができなかった。部としてのねらいを踏まえ、今後参加していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員全体ではまだできなかったが、支援教育部以外の先生と連携協働が進んだ。特別支援教育コーディネーターとして、ある先生には1歳児聴覚の保育相談・個別の教育相談・支援会議等参加してもらった。また、ある先生には4、5歳児の教育相談・幼稚園初任研にて講義をしてももらった。また、幼稚園全体として子どもの保育をうけてもらった。学部長(小・中・高の先生方)には入学予定の子どもの教育相談をうけてもらった。通級担任にも個別の教育相談も多数受けてもらっている。進路学習として、聴覚学級の生徒に自分の経験から話をさせていただき教育相談もあった。また、重症児の教育相談については、担任経験のある先生方に今後のことについて相談に乗ってもらったことができた。 ○今後、さらに職員全体で教育相談を進めていくことは、先生方の負担が増えることになると思う。しかし、前向きなご意見も多数いただけており、先生方の経験や得意分野を生かして教育相談にあたる形で、協力していただけたらと思う。
	関係機関(市町教育委員会等、療育、医療、学校園)と連携して地域のニーズを知り、センターの機能の充実を図る。	3.3	13	24	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画に関する発達検査について、研修を支援部主体で行ってはどうか。 ○関係機関との連携の内容を簡単に掲示してあると、何をどのようしているのかかわかると思う。 	○地域支援で行っている内容やリーフレットなど、職員全体に対して報告や掲示を行い、見える化を心がけていきたい。
幼稚園	子ども同士でのやりとりを支援しながら、個々の実態に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	3.5	18	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション方法の違う子ども同士でのやり取りも増えている様子がうかがえる。 ○丁寧にやりとりされていて、子ども達のコミュニケーション能力がどんどん成長しているのを感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が見守ったり、促したりする中で、子どもたち同士のやりとりが見られるようになってきた。 ○コミュニケーション手段が違う子ども同士をつなぐために、教師がやりとりの見本となったり、一緒に伝えたりして、個々の実態に合わせたコミュニケーションの力を育てることが今後必要である。 ○教育相談児と合同保育を行い、お互いに刺激し合いながら活動することができた。子ども同士のやりとりも色々な場面で見られるようになった。
	幼児がいろいろな遊びを通して主体的に活動ができる環境設定を工夫する。	3.5	18	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士の人間関係の基本を教育できている。 ●親との共通理解を得るのが難しいと感じた。 	○次年度は、幼児の集団確保が課題となり、工夫が必要である。
小学部	児童が伝えられた内容を理解したり、自分の思いを伝えようとする力を育むため、教師による手話や絵カード等を利用したコミュニケーション手段を改善、工夫する。	3.5	20	17	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ○手話サイン、発声、身振り、絵カードなど一人一人に合ったコミュニケーション手段を工夫して取り組んでいる。 ○子どもたちの伝え方が育ってきているように感じます。 ○絵カード等を利用して、コミュニケーション手段として活用できた。 ○子ども達の伝えようとする力、伝えたいという気持ちがとてもよく育っていると感じます。 ●児童の発達検査の数値を正しく分析し、このデータからの学習目標を考える必要があるのでは。 ●知的、聴覚問わず、どの授業も手話や絵カード等を利用したコミュニケーション手段を活用できていた。しかし、手話はどの教師ももう少し努力する必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も、発達検査のみならず、クラス・学部での話し合いを密にし、学習目標等を考えていく必要があると再認識した。 ○聴・知の隔たりなく学部全体で子どもたちに関わり、全ての教師が手話を使う機会を作っていくたい。
	児童が公共のマナーを身につけたり、人間関係を広げたりするため、校外学習や交流及び共同学習の内容や運用について検討を加える。	3.4	18	20	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の脱着など自分でできるように、毎日の着替えをいれるなどを高める取り組みをなされているのはよい。着替えが終わったあと、乱れている部分を整える大人の支援を入れて、周囲がきちんとした印象を持てるようにすることも必要ではないか。 ○人間関係の大切さを理解させがりを持たせた。 ○最高学年としての意識や態度を育てる取り組みや、キャリア教育についての取り組みに力を入れておられたことがよかった。 ○個々に合ったコミュニケーション手段で生徒同士をつなぐことで自然に関わり合う様子が見られた。 	○社会見学や小学校との交流及び共同学習、自然体験活動、遠足、総合的な学習の時間等を通して公共のマナーを身につけ、人間関係を広げることに今後も力を入れていきたい。
中学部	生徒の実態や課題を共通理解し、分かりやすい提示等を工夫することにより、コミュニケーション力の向上を図り、人間関係を広げるよう支援する。	3.4	17	21	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と進路見学会ができた。子どもたちと出石特別支援学校の作業見学会に行き、学習ができた。 ○学校見学や情報提供により、保護者とともに高等部への進学を考えたり、高等部に進学したあとを想定して学習活動を組むなど、進路を念頭に置いた支援ができています。 ○実態に合わせて分かりやすく指導できている。 ○様々な学習グループを設定し、各教科の指導者や担当者を変えている。指導者と生徒の組み合わせを変え、コミュニケーションの相手が広がっている。クラスをこえ、遊ぶ場面も多くなっている。 ●諸機関との連携という部分が見えにくかったため、実際に行った連携の内容を周知してもらって参考にしたい。 ●今後、丁寧に進めていきたい。 	○授業の提示については、学習の予定、説明、活動に個々にあった提示を行うことができた。今後も、手話、掲示物、モニターを使った提示を行う。クラスを超えて関わりができる学習グループを設定し学習を行う。
	ニーズに応じた福祉サービスや進路情報を提供し、諸機関との連携を図って進路指導を進める。	3.3	13	23	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と進路見学会ができた。子どもたちと出石特別支援学校の作業見学会に行き、学習ができた。 ○学校見学や情報提供により、保護者とともに高等部への進学を考えたり、高等部に進学したあとを想定して学習活動を組むなど、進路を念頭に置いた支援ができています。 ○実態に合わせて分かりやすく指導できている。 ○様々な学習グループを設定し、各教科の指導者や担当者を変えている。指導者と生徒の組み合わせを変え、コミュニケーションの相手が広がっている。クラスをこえ、遊ぶ場面も多くなっている。 ●諸機関との連携という部分が見えにくかったため、実際に行った連携の内容を周知してもらって参考にしたい。 ●今後、丁寧に進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の進路見学会では、卒業後の事業所の学習ができた。学校見学や情報提供を行い、高等部への進学を考えることができた。また、校外学習では、高等部の見学と作業体験を行い進路の学習をすすめることができた。今後も継続して実施する。 ○懇談会等で保護者の思いを受け止め進路情報を提供し今後も進める。 ○職員会議資料に記入する。職員打合せに報告し周知する。 ○3月の行事決定前に学部行事予定を知らせる。
事務部	水道使用量の縮減に取り組む。	3.2	10	27	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ●プールの水は衛生面を考慮してオーバーフローになるようにしてほしい。 ●校内設備の老朽化により節水に取り組んでいるが水漏れすることもあり設備面で課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○設備面の老朽化に対応して、消火栓配管の漏水工事を実施。 ○毎日水道メーターを確認し、週末はバルブを閉めて、水道の漏水を系統別に確認し、予防に努めている。
	コピー用紙の使用量減少に取り組む。	3.1	8	27	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ○用紙裏面を再利用し、使用量の減少に努めた。 ○今年度削減できたと感じるが、まだまだ職員の意識低く、紙もインクも無駄が多い、引き続き取り組みが必要。ゴミ袋についても取り組みが必要と感じる。 ○水道とコピー用紙の使用料については、年次推移がわかると現状をつかみやすいので、機会があれば提示してほしい。 ○会議資料を印刷しているが、ほぼ全員がパソコンを持っているので、パソコン画面で資料を開きながら会議をすれば印刷用紙の削減になると思う。 ○両面刷り、枚数の確認を行ってムダ刷りをなくした。 ○無駄な印刷をしないように心がけています。 ○印刷機に裏紙使用専用トレイができて便利になりました。 ○コピー用紙はできるだけ無駄がないようにしたり裏紙を使うことを心がけたりした。 ○自分の反省も込めて、コピー用紙の印刷時には用紙確認をしてミスに気がつけたいです。 ○パソコンの入力をしっかり確認してから印刷するようにしたいです。 ●職員への周知がもっと必要ではないか？裏面使用はもちろんだが、裏紙を出さないようにすることも大切だと思う。 ●パソコンの印刷機で裏面の使用を設定していない人がいるようなので、時々啓発の目的でお知らせしてはどうか。コピーについてはなるべく裏紙を使うように心掛けていく。今後も継続していきたい。 ●コピー機を職員室にも置いてほしい。仕事の効率がよくなると思う。 ●裏面を使用すること、コピー機を使用する印刷枚数を明確に提示することで、用紙の使用量減に繋がったと思う。しかし、事務室が閉まった後もコピー機を使えるようにしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用紙の削減については、職員の意識の高活用が図られてきている。コピー機の操作等についても、事務室と連携しながら、無駄な印刷をなくす取組に繋がっている。 ○来年度に向けて、コピー機の計画的な活用についても提案していきたい。
人権教育	兵庫県人権教育研究大会但馬大会や豊岡支部の人権研修会等に参加したり、普段から自己の言動を省みたりして、人権感覚を磨き、意識を高める。	3.2	11	23	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の名前を呼び捨てにしないなど、身近な人権意識の向上を図る。 ○毎日忙しいが、自分の言動を振り返り、人権意識を高めることは大切と感じる。 ○夏の但馬大会は様々な視点での研修ができてありがたかった。 ○指導の際に、感情のまま喋ることなく意識した。また、毎日言動を省みた。 ○普段の関わりから、子どもの実態に応じた目標を立て取り組むことが大切だと思う。 ○自己の言動を省みて、人権感覚を磨くことは今後も必要だと思うが、目標を変えてもよいかと思う。 ●参加できていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究大会などに参加することは、今、社会で話題となっている人権の課題などを学習する機会としては良いことである。また、人権に関する多様な考え方やそれに対する意見を見聞きすることは、各自の人権感覚を磨く良い機会だと思う。 ○兵人教但馬大会や研修会は、他の研修会等と日にちが重なっていたため、参加できない職員もいたが、止むを得ないことであり、多数の職員が参加できたことはよかったと思う。次年度も引き続き多数の参加を呼び掛けたい。 ○普段から自己の言動を省みて、人権を意識することが増えてきたのではないかと感じられる。引き続き全体で向上したいものである。
	人権教育計画に基づいた研修とDVD視聴の研修を行い、幼児児童生徒に対する人権教育指導の理解を深める。	3.4	16	22	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ○研修やDVDなどで改めて自分の言動や生徒達への接し方を考える機会となった。 ○今年度のDVD研修はたくさんの職員が参加し有意義であった。 ○DVD研修はよかった。DVD視聴後に全員の感想文をまとめたプリントを配布してもらえたことがよかった。みんなの考えを知ることにより、より理解が深まった。 ○DVDを使った人権研修で意見交換をしたのがよかった。 	○DVD視聴研修し、感想を共有し合っ、生徒が学校を卒業するまでに身につけておきたい力など日々の教育について改めて考える機会となり、有意義な時間が持てたと思う。
キャリア教育	発達段階に応じた能力を設定し、幼稚園から中学部においてキャリア教育を推進する。	3.3	13	23	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ○研究テーマをキャリア教育に設定し、それぞれのクラスで研究を進めている。また、学部全体でも研究に取り組み、キャリア教育に対する理解を深めることができた。 ○キャリア教育の研修会はよかった。キャリア教育を考える上で、幼小中といった各発達段階に必要な力について、もう少し詳しく話を聞きたいと思った。 ○技能検定のDVDを授業に活用することができた。 ○今年度中学部では、社会にでたら、大人は、の発想で様々な社会体験(仕事体験)を組んでいたのはとてもよかった。障害があっても大人として、社会の一員として扱ってもらえることは生徒たちの意欲を高めることができたと思う。 ○すべての学習には、キャリアの視点があると改めて感じた。幼稚園から中学部、入り口から出口まで見通すことで、幼児児童生徒個々の力を伸ばしていくことにつながると思う。 ○教科の指導で、発達段階に応じた課題を設定し、技能とコミュニケーションの向上に向けて指導した。お店・学校・作業所に出向き、生活、仕事についての学習を進めた。 ●キャリア発達段階表、毎年見直しが必要かなと思われまます。 ●まだまだこれから毎年考えていくことが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科の指導で、発達段階に応じた課題を設定し、幼小中で実践を重ねた。具体的な実践が多くなされた。さらに指導方法と指導内容の改善を行うこと、新たな課題を見つけ、指導実践することでキャリア教育の充実を図っていく。 ○教科等で実践し、必要な事項を追加、改訂していく。
	外部人材や地域の施設、事業所を活用した学習に取り組み、キャリア教育を推進する。	3.1	9	25	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育を考えた時、必ずしも外部人材を入れて、となるのではなく、施設等を活用した学習からはじめて、必要になれば外部人材を入れ、基礎・基本の人づくりを大切にすることが求められると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の事業所の見学、作業体験、学習を継続する。 ○教科の指導、作業学習の内容及び指導方法について外部人材より助言指導を受ける。 ○地域の施設を活用し、地域に開かれたキャリア教育を推進する。
学校関係者評価		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の減少が気にかかります。聴覚の子どもたちが聞こえる地域の学校へ転出したり、または、集団を求めて転校したりする状況があり、豊岡聴覚特別支援学校の存続が危惧されます。聴覚特別支援学校の専門性を活かして頑張ってください。 ○学校評価シート及び保護者アンケートの結果を見て、子どもたちの実態に合った支援やコミュニケーションに取り組まれていることは素晴らしいと思います。しかし、放課後サービスを利用している子どもたちを見ると、もともと持っている語彙数が少ないです。従って、手話の語彙数も少ない状態です。また、学校独自の手話を覚えていて、私が使った手話を違うと指摘する子どももいます。学校手話と一般の手話との違いで戸惑っています。一般の手話の取得にもっと力を入れていただきたいと思っています。 ○手話通訳について、手話通訳の見方、利用の方法、手話通訳の仕事とはどのようなものか、学校とセンターと一緒に学習する機会を設けていただきたいと思っています。手話通訳に関して派遣された通訳者からセンターに苦情も聞いています。一緒に学ぶ機会をもって手話通訳について学びましょう。それと、学校内の手話通訳整備について、もっと県に強く要望していただきたいと思っています。来年度「意思疎通支援条例」が県で整備されると聞いています。 ○学校独自の手話ではなく、きちんとした手話の獲得に力を注いでいただきたいと思っています。 ○冬場にグラウンドに、職員の車を駐車していることには抵抗がある。グラウンドはもと子どもたちのものであり、のびのびと自由に使えるようにしていただきたいと思っています。 ○聴知併置校として、それぞれの子ども達の個別の支援計画に従って、将来に希望をもって進むことができるように頑張ってください。 ○人数が少ない分、縦割りや地域との交流をより工夫して、多くの人の人と交わりをもって学ぶことが大切だと思います。また、保護者アンケートで1、2の評価をしている意見を大切にして、1、2の評価をどうすれば3に引き上げられるかという視点で改善策を講じることが全体にとっても良いことにつながると思います。施設設備については、引き続き県への要望を続けてください。 						